『お祭りの魅力』

五月八日に新型コロナウイルス感染症の位置付けが「二類相当」から「五類」へと移行したこと、感染状況が落ち着きを見せていることから、全国的に人の動きが活発になってきました。それは、五月二十四日からの東京研修中、東京各地の人波・人混みからも実感させられました。

身近なところでは、瑞浪市・各地域の行事も、少しでもコロナ禍前に戻そうとする強い想い・願いが伝わってきました。ただ、根底に、開催したことによるリスク（感染拡大の発端にはならないようにという）を十分に踏まえた上であることが共通項としてあります。

今夏、各地区の夏祭り、七夕まつり後の清掃ボランティア、学童の見守りボランティアと、計7か所からのボランティア依頼がありました。参加人数枠があって希望者全員の参加が叶わなかったところや、同一日開催で参加人数にバラつきがあったところもありましたが、8月2日現在の情報として、参加した皆さんの積極性、誠実さ、勢いのよさについて、地元住民や主催者側の方から、お褒めの言葉を数多く頂きました。学校外での活躍や頑張りを見聞きすることは、とても嬉しいことです。しっかりと自らのやるべきことに取り組むとともに、地元の方と一緒に楽しんでいる光景が目に浮かびます。

私も一か所の夏祭りの様子を見に行きました。公園内での開催で場所的には限られたスペースでしたが、その中で主催者・参加者ともに全員が笑顔で、お祭りを楽しんでみえたのです。アットホーム感が漂い、飛び込みで参加しても温かな気持ちになりました。勿論、中学生ボランティアも全員が一生懸命働いていました。小さな子が来たときには、その子の目線に合わせて対応する姿がありました。うどんの販売では、会計から注文まで丁寧に行う姿がありました。こうした触れ合いや販売といった体験は、日頃からできるようでなかなか機会はありません。こうした地元のお祭りで、教えて頂きながら、実際にやってみるという体験はとても貴重なことです。いい体験となりましたね。

このお祭りの中で主催者側の方々とお話をさせて頂いて、一番印象に残ったこと。それは、続けよう・守ろうとすることの大切さです。コロナ禍で中止とせざるを得ない状況が続き、今回の開催は四年ぶりだったそうです。それ故に、開催にあたっては、抵抗感を抱く方もみえたそうです。しかし、そこでやめるという決断をすれば、きっともう二度と開催することはできない、地区の住民が楽しめる場を設けたいという思いを伝え、開催に至ったという話を伺いました。

『お祭りの魅力』。それは、老若男女誰もが楽しめる場であること、笑顔が弾ける場であること、久し振りに会う人との再会の場であること、時間を忘れて語り合うことのできる場であること、人との触れ合いで学びが生まれる場であること。こうした魅力を感じることができた夏祭りでした。

来年以降も継続していかれることを祈念しております。